



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 1 月 6 日(水)

発行 館長 加藤 智 一

山茶花（さざんか）と椿

似て非なるも、世の中には多々ございますが、植物界においては、私、個人的には「山茶花と椿」、「アヤメとショウブとカキツバタ」、「芍薬と牡丹」がベスト 3。山茶花は、俳句では冬の季語で、実際には秋の終わりから初冬にかけての寒い時期に、5 枚の花弁の花を咲かせるもので、古くから童謡・唱歌、はたまた演歌にも取り上げられ、人気のある常緑広葉樹の小高木です。

有名な抒情歌「たきび」の歌詞では

- 一、かきねの かきねの まがりかど
たきびだ たきびだ おちばたき
「あたらうか」「あたらうよ」
きたかぜびいぼう ふいている
- 二、さざんか さざんか さいたみち
たきびだ たきびだ おちばたき
「あたらうか」「あたらうよ」
しもやけ おててが もうかゆい
- 三、こがらし こがらし さむいみち
たきびだ たきびだ おちばたき
「あたらうか」「あたらうよ」
そうだん しながら あるいてく



とあります。「たきび」の中で登場してくる山茶花は、寒々と、ど〜んよりした冬の風景の中で、鮮

やかな赤色の花弁がひときわ際立ち、印象的に感じられたのではないのでしょうか。

さて、私事。家を建てたときにいただいた椿の苗木が、結構な巨木になってしまい、その時期になると毎年、玄関先は落ちた椿の花でけっこう賑やかなことになってしまいます（掃除をしないでほったらかしなもので）。山茶花と椿を並べてみれば違いはわかりますが、それぞれだと、なかなか判断に困ります。ただ、椿の花期は 2～4 月で、山茶花の方が早く花期が終わるので、その辺りで判断は可能かな？ただ、早咲きの椿もあるのでどうかな？ちなみに山

茶花の別名は「寒椿」。また、山茶花は花弁が一枚ずつ散っていくのに対して、椿は花ごと落ちるので、お武家さんは忌み嫌ったという話もあります。

アヤメとショウブとカキツバタ

アヤメとショウブ、カキツバタの三つも見目がよく似ていて、最近まで私は、全く同じ物だと思っていました。パソコンではアヤメもショウブも「菖蒲」と変換されるしね。ところが、アヤメとショウブは同じ花の仲間ですが、カキツバタは別のグループに属しています。アヤメはユリ目アヤメ科アヤメ属の植物。開花時期は 5 月上旬～5 月中旬ごろ。花の大きさは小輪で、背丈は 30cm～50cm とショウブやカキツバタに比べるとやや小さめです。草原や乾燥地で育ち、水の多い湿地では咲きません。稀に白い花をつけることもありますが、基本的には青紫色。葉っぱの主脈がほとんど目立たないところも特徴です。これに対してショウブ（ショウブの花として私たちが目にしているものは、正しくは「ハナショウブ」です）の開花時期は、アヤメよりも少し遅く、6 月上旬～6 月下旬。アヤメが終わった頃に見頃を迎え始めます。花は大輪で、背丈 60cm～100cm にまで成長するものもあります。ハナショウブは湿地や湿原に生える植物です。色も紫色や青色、白色など品種によってさまざまです。また、アヤメの葉脈は目立たないのに対し、ハナショウブは葉の表の中央に 1 本、裏に 2 本、はっきりと目立つものがあります。

カキツバタは、アヤメとハナショウブがユリ目であるのに対して、キジカクシ目アヤメ科アヤメ属に属します。開花時期は 5 月中旬～5 月下旬です。カキツバタの花は中輪、背丈は 30cm～90cm 程度。開花時期も背丈も、アヤメとハナショウブの中間くらいです。カキツバタは、池や沼などの近くや湿地に自生します。花の色には紫色や赤紫色などがあり、葉っぱの主脈はほとんど目立ちません。

アヤメとショウブ、カキツバタは、それぞれ背丈や自生する場所が異なりますが、なかなかこれだけで判断するのは難しそうです。ですが、この 3 種類の見分け方のポイントは「花びらの付け根」にあります。アヤメは、花弁の根元が白と黄色、網目模様があります。ハナショウブは、花弁の根元が白と黄色、模様がありません。カキツバタは、花弁の根元が白一色で模様がありません。いかがでしょうか、多少参考になったでしょうか。ちなみに、芍薬と牡丹の区別つきます？